

平成31年度 自己評価計画書

石川県立七尾東雲高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 基礎学力の向上と「生徒指導の3機能」を生かした授業づくり	① 落ち着いた雰囲気の中で日課をスタートさせるために、5分間の朝学習に取り組む。	全学年 生徒指導課 特別活動課	生徒指導課を中心となって登校時に身なりや遅刻の指導を行っており、前年度の遅刻者数は1日平均1.3人と大幅に減少した。今年度も引き続き、基本的生活習慣の定着を図る必要がある。	【成果指標】 生徒全員が遅刻しないように登校している。	遅刻者数は1日平均 A 1.5人未満である。 B 2.0人未満である。 C 3.0人未満である。 D 4.0人以上である。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、1回ずつ実態調査する。
	② わかりやすい授業づくりの一環として、特にICT機器を効果的に活用した授業づくりに努める。	教務課 各教科	ICT機器の活用やグループ学習は多くの授業で取り組まれているが、生徒が主体的に学習し、思考力を高めるためには効果的な活用方法を求めていく必要がある。	【努力指標】 ICT機器を積極的に活用した授業改善に努める。	生徒による授業評価において「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 ※ただし、実習科目を除く	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
	③ 生徒の自己有用感や共感的人間関係に配慮した主体的・対話的な授業づくりを目指し、発表活動やグループ活動を効果的に取り入れる。	教務課 各教科	ペア学習やグループ学習などを通して、対話的な授業は少しずつ実践されているが、「生徒が発言する場面」が多いとする評価が十分ではない。生徒の発表力を育てる授業を設定するなど、引き続き積極的な実践が必要である。	【満足度指標】 主体的に授業に参加し、対話的に学習していると感じる生徒を増やす。	生徒による授業評価において、「グループ学習などで生徒が発言する場面が多い」、「授業中に自分でよく考えるように努めている」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
	④ 生徒の自己存在に配慮したわかりやすい授業づくりを目指し、板書や教材、話し方や説明などを工夫する。	教務課 各教科	約8割の生徒が授業がわかりやすいと回答している一方で、授業中の居眠りも散見される。引き続き、わかりやすい授業への工夫と適切な課題の与え方など、授業の改善が必要である。	【満足度指標】 授業が工夫されている、わかりやすいと感じる生徒を増やす。	生徒による授業評価において「授業がわかりやすい」、「教え方を工夫している」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
	⑤ 生徒が意欲的に体力づくりに取り組むよう体力データを活用するなど、指導方法を工夫する。今年度も引き続き、持久走に重点的に取り組む。	体育科 各学年	授業などを通して体力向上に努めているが、全体的には県平均を下回っている。持久走及びシャトルランの取組で一定の成果が見られたので、継続的に更なる体力向上を図りたい。	【成果指標】 新体力テストでの持久走等の評価においてA、B群を目指す。	新体力テストの持久走で6点以上の生徒が A 50%以上 B 45%以上 C 40%以上 D 40%未満	CまたはDの場合、改善策を検討する。	年2回(5月、10月)の測定により評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2 生徒の適性に応じた志望進路の実現	① 生徒が主体的に将来の進路をしっかりと考え、進路実現に向けて取り組むよう、各事業の事前・事後学習を充実させる。	進路指導課 学級担任	進路選択に際し、自ら将来を見通して、行動できる生徒が少ない。外部講師による講話や施設見学、及び企業ガイダンスでは、生徒が能動的に学習するよう、各事業における事前・事後学習を推進する必要がある。	【満足度指標】 それぞれの学年の生徒の実態に対応した進路行事を企画する。	学校の進路ガイダンスが、主体的に将来を考える上で役立つとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	各学年の進路行事の際に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	② 担任や進路担当が生徒との面談で、次回に保護者との相談結果を報告してくれるよう指導し、生徒の進路意識の高揚を図る。	進路指導課 学級担任	保護者面談での情報提供や進路説明会等を契機として、低学年の段階から家庭で、生徒と将来について話す機会を増やすようにもっているが、十分な成果が得られていない。	【成果指標】 生徒が家庭で進路について相談する回数を増やす。	家庭で、生徒の将来の進路について、話しているとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、保護者にアンケートを実施する。 (保護者の学校評価)
	③ インターンシップや長期型企業実習前に、実施の目的を説明し、基本的な接遇指導を徹底して行う。	進路指導課 学級担任	2年生の就職希望者を対象にインターンシップ、または長期型企業実習を実施しているが、受け入れ企業からは挨拶や返事など、基本的な接遇について改善を求められているので、教育活動を通して十分な指導をする必要がある。	【成果指標】 生徒の接遇態度に対する受け入れ企業側の評価向上を目指す。	受け入れ事業所の実施後アンケートにおいて、生徒の接遇に関する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	7月から9月の実施後、受け入れ企業にアンケートを実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 特別活動の推進による学校の活性化と規範意識の醸成	① 生徒会執行部が部活動にも働きかけて、学校全体で朝の挨拶運動に取り組む。	特別活動課 部活動 生徒指導課	目を合わせて挨拶していると答える生徒は72%いるが、そのうち50%の生徒は「まあまあできている」と回答している。常に自分から大きな声で挨拶する態度を育てたい。	【成果指標】 生徒が相手の目を見て大きな声で挨拶のできる学校にする。	生徒の学校評価において、「自分から進んで挨拶している」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	② 部活動の指導方法等について顧問が研鑽を深め、生徒の意欲を引き出す効果的な指導の工夫・改善に取り組む。	特別活動課 全教職員	部活動登録者のうち、活動日の8割以上に参加している生徒は73%であるが、学校の活性化に繋げるためには、100%に近い部活動への参加率が必要である。	【成果指標】 部活動への参加率を高める。	1・2年生における部活動への参加状況は、週の活動日に対して、8割以上参加しているという肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	③ 清掃活動を通して、生徒が衛生面への配慮ができるように、教室美化に重点的に取り組む。	保健環境課 全教職員	年々生徒数、教員数が減り、清掃箇所が増え、手が回らなくなっているのが現状である。美化コンクールを意識付のきっかけとし、美化意識を高めていきたい。また、保健委員会の活動を充実させることで、さらなる意識の改善を図りたい。	【成果指標】 各教室のゴミが毎日処理され、机椅子が整頓された状態である。	教室が毎日の清掃活動で美しく、衛生的であると判断する生徒の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	④ 髪型・服装の身だしなみの乱れや違反している生徒に対して、朝の登校指導および昼の校内巡視を継続して実施する。	生徒指導課 全教職員	「生徒に声をかけをし、その場で服装を直させるよう心掛けている」は、100%を目指す必要がある。身だしなみを正す指導と同時に、挨拶や規範意識の定着を図る。	【努力指標】 全教職員の共通理解のもと登校指導等で挨拶や規範意識の定着を図る。	登校指導や校内巡視の際に、生徒に声をかけているとする肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	⑤ いじめのない学校づくりを目指し、学校生活全般を通して全教職員が生徒の変化を見逃さないような取組を行う。	生徒指導課 全教職員	いじめの未然防止として、アンケート調査や生徒面談での生徒理解、登校指導や昼食時の校舎内の巡回。また、ネットでの書き込みについて指導を行っているが、組織的・計画的な取組を推進したい。	【努力指標】 生徒のボランティア活動や地域活動をとおりて生徒のボランティア精神の向上を目指す。	アンケートや面談での生徒理解や、校内巡視等を通して、生徒の動向を把握し、いじめの未然防止と早期対策に努めているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員のアンケート)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4 地域から信頼される開かれた教育課程の推進	① 専門高校として地域社会と連携した実践的な学習を推進する。	工業科 演劇科 総合経営学科 全教職員	8割を超える生徒が地域と連携する取り組みに参加できていると実感している。今年度も山の寺院院群のガイドや、収穫祭、演劇科の定期公演、課題研究の学習や発表などの活動が、地域と密接に関連し、生徒自身の将来に役立つものにする必要がある。	【満足度指標】 工業・演劇・農業・商業の分野で地域における体験的な学習が積極的に進められている。	専門学科での地域と連携する事業や学習において実践的な取り組みができているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	② 生徒のボランティア活動や地域への貢献活動等の参加を積極的に推進していく。	特別活動課 学級担任	学校全体や部活動毎の通学路清掃や募金活動、地域イベント等に参加しており、自己有用感が高まったと感じている生徒は66%に留まっているが、地域への参画意識やボランティア精神を高めるためには、継続的な取組が必要である。	【満足度指標】 生徒のボランティア活動や地域活動をとおりて生徒のボランティア精神の向上を目指す。	ボランティア活動や地域への活動に参加することで、ボランティア意識や自己有用感が高まったとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	③ 本校の教育活動状況をホームページの更新やメール配信等で積極的に情報提供する。	全教職員	本校の教育活動状況の情報提供については、8割を超える評価を保護者からいただいている。学校の活性化を図るためには、まず日々の活動状況を迅速かつ適切に情報提供を行う、開かれた学校づくりに積極的に取り組む必要がある。	【努力指標】 本校の教育活動状況に関する情報提供を迅速かつ適切に行う。	本校の教育活動状況についての情報提供が行われているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、保護者にアンケートを実施する。 (保護者の学校評価)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
5 教職員の業務分担を点検して業務内容の平準化に努めた働き方の意識改革の推進	① 各業務に使える時間と業務の目標の点検を図って、具体的な手立てを明確にし、働き方そのものの見直しを図る。	全教職員	教職員がそれぞれ時間外勤務減少に取り組むとする肯定的評価が目標値に達しなかったのが現状である。各課・学年・科の主任が「働き方改革」を念頭に置きながら、仕事分担を適切に行わせる必要がある。時間が費やされている部活動や資格取得等を含めた補習指導の質を維持しながら、時間外勤務時間を減少させたい。	【努力指標】 教員の時間外勤務の時間を確実に減少させる。	教職員ひとりひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいるとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員のアンケート)